

シン出島を目指して

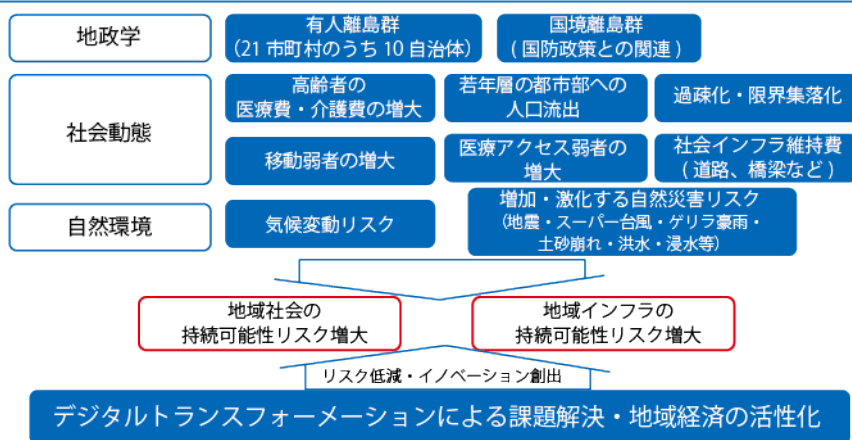
本県は3年前より全国に先駆けて、**県と21市町がデータ連携基盤で結ばれています。**

活用すべきデータを集積・共有し、地域課題を都市間連携で解決する仕組みづくりが必要です。せっかく全国で一番で県下全市町と基盤で繋がっているのに、**十分活用できていない**と指摘してきました。

これまで個人的に活動してきましたが、これから同僚県議と本格的に取り組みます。

▶長崎県を取り巻く課題

少子高齢化という日本全体の大きな課題に加えて、長崎県特有のさまざまな課題が絡み合い、現状のままでは、地域社会の持続可能性、あるいは地域インフラの持続可能性そのものが脅かされつつある、シビアな現実に向直している。それら課題に同時かつ効率的に対処し、リスクを低減しつつ地域にイノベーションを生み出すために、デジタルトランスフォーメーションの早期社会実装が求められている。



本当の意味での100年に1度の大変革を迎え、長崎県の「新しい長崎県」づくりのビジョンに向けた**デジタル社会の実現**を目指します。

地域経済が都市OSで繋がり、ビックデータを産業化し新たな展開を促し、また医療福祉分野ではデジタル活用で「**地域格差のない、豊かな自然と仕事と生活のワークライフバランス**」を目指し、あわせて住民が安心して健康的に暮らせる社会を実現する」イメージは左図です。

そこで先進事例に学び、連携を試みるため今月末に県議有志でインドネシアを視察します。

なぜ、インドネシアか？

これまで**スマートシティの構築**に向け一緒に取り組んできた「サイバーシティ創造協議会」(全国15の県で展開、本県は長崎市、諫早市、大村市、雲仙市、島原市、壱岐市が加盟)が、インドネシアのバリ・サヌール地区で既に実装、現在レバナ首都圏(7都市、戦略経済特区に指定され人口1000万人)での展開を実践中。

インドネシアは2040年には日本を抜き世界4位の経済大国になると予測されています。

そこで先鞭をつけ、インドネシアを市場としてターゲットに定め、「**長崎から輸出産業を構築**」する。それにより**地域経済を活性化させ県民所得が向上**する。

最終目標はここです。まさに「東インド会社」と出島の歴史より『**令和の出島**』を目指します。

来月、私の県政報告会を計画していますので、その時に改めて述べさせていただきます。

インドネシアは2040年に世界4位の経済大国に

2021年			2040年		
順位	国名	GDP (兆円)	順位	国名	GDP (兆円)
1	米国	23.00	1	中国	47.31
2	中国	17.46	2	米国	28.06
3	日本	4.94	3	インド	25.08
4	ドイツ	4.23	4	インドネシア	7.51
5	英国	3.19	5	日本	5.91
6	インド	3.18	6	ドイツ	4.91
7	フランス	2.94	7	トルコ	4.78
8	イタリア	2.10	8	ロシア	4.62
9	カナダ	1.99	9	ブラジル	4.49
10	韓国	1.80	10	メキシコ	3.83
11	ロシア	1.78	11	英国	3.80
12	豪州	1.63	12	フランス	3.68
13	ブラジル	1.61	13	韓国	2.87
14	メキシコ	1.29	14	イタリア	2.69
15	インドネシア	1.19	15	カナダ	2.37

(注)対象はG20(主要20カ国・地域)から欧州連合(EU)を除いた19カ国。GDP(国内総生産)は21年、40年ともに推計値。40年GDPは10年米ドルの購買力平価を基に算出(出所)21年は国際通貨基金(IMF)、40年は経済協力開発機構(OECD)

